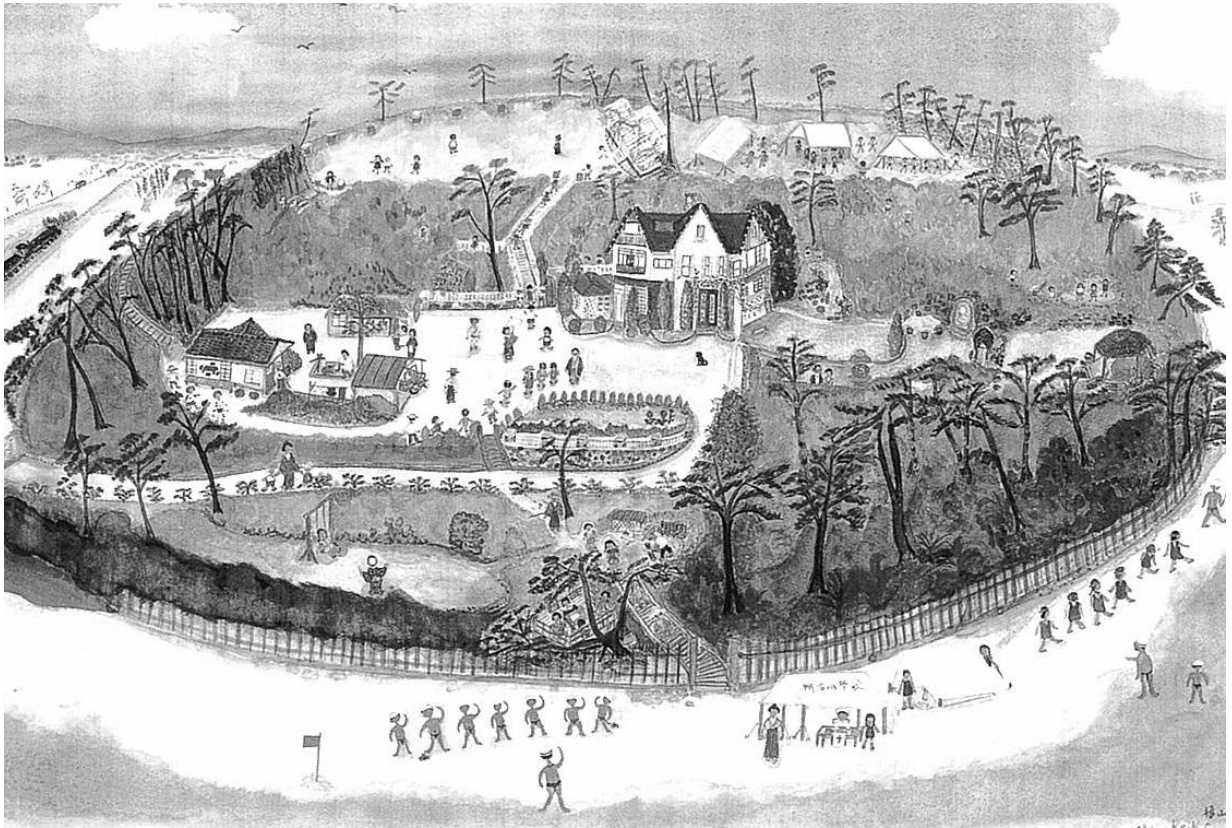


ろざんそう

第11回

櫓山莊子ども俳句大会表彰式



昭和初期の櫓山莊

原画 東郷啓子氏（俳人 橋本多佳子の三女）

日時：平成27年10月24日（土）
会場：櫓山莊公園（小倉北区中井浜）

表彰式次第

- 1 アトラクション 北九州市消防音楽隊・カラーガード隊
- 2 主催者あいさつ 櫓山荘子ども俳句大会実行委員会
会長 石川 一步 (北九州俳句協会会長)
- 3 来賓あいさつ 北九州市長 北橋 健治
- 4 表彰状授与
- 5 講評 福岡県俳句協会会長 岸原 清行
- 6 記念撮影

特別賞

大賞

鹿の子を見おろす金剛力士かな

企救特別支援学校 中学部3年 中野 翔太

北九州俳句協会会長賞

夕焼が静かな波にのっている

新道寺小学校 6年 増崎 蓮

文学館館長賞

セミたちは一週間が夏休み

葛原小学校 5年 佐藤 碧一

小倉北区長賞

渡り鳥帰ってこいよまたここに

大里柳小学校 6年 松井 駿延

教育委員会賞

あせ流しみんなで取った銅メダル

守恒小学校 5年 堀 拓人

小倉北区自治総連合会会長賞

夕焼のはるか遠くに見える明日

思永中学校 3年 若林 宏樹

杉田久女賞

平尾台夏の夜空は万華鏡

長尾小学校 5年 坂田 真由香

橋本多佳子賞

静けさに涼しき感じる水の音

引野中学校 3年 高時 浩太

公益財団法人芳賀教育文化振興会賞

清水の舞台から見る新樹かな

熊西中学校 3年 岡住 拓未

西日本新聞社賞

盆踊り心も体も踊ってる

海老津小学校 6年 松尾 呼春

石川 一步 選

風りんは心にひびく夏の音	井掘小学校	6年	中村 萌々花
蝉の声うるさいけれど夏らしい	北小倉小学校	6年	林 栄輝
ひまわりはみんなをてらす夏の花	清水小学校	6年	白川 陸央
桜の木緑の日がさが出来上がる	富野小学校	6年	村上 ゆうすけ
夏が来て出番が来たとせみがなく	葛原小学校	5年	西村 大和
セミなくて会話が全部けされたよ	葛原小学校	6年	出田 幸輝
秋になりいねがたくさんおどってる	新道寺小学校	5年	竹林 愛花
そうめんや竹の道路を流れてく	曾根東小学校	6年	加藤 司
そまってく赤黄オレンジ秋の山	守恒小学校	5年	上村 陽奈
北風がヒューヒューヒューと大きわぎ	守恒小学校	5年	北原 瑠夏
ツバメの子守って働くお母さん	黒崎中央小学校	6年	伊藤 梨歩
受けついだエースナンバー背負う夏	高生中学校	2年	伊藤 ゆかり

岸原 清行 選

青い海無限に広がる夏の夢	大里柳小学校	6年	平井 希
赤黄色ドーンと空をさく花火	折尾西小学校	5年	嶋田 心音
私よりかがやいているひまわりよ	内浦小学校	6年	鬼城 美生
墓参りひさしぶりだねおじいちゃん	海老津小学校	6年	松岡 吉輝
トロッコ道ふりむけばほら緑の木	戸切小学校	6年	河野 華鈴
宿題は終わってますかとセミが聞く	山田小学校	6年	中西 菜々子
スイスイと風に向って赤とんぼ	吉木小学校	6年	松井 千夏
蛍より君の笑顔が光ってる	門司中学校	1年	白石 拓巳
金魚鉢のぞいた猫のまるい顔	思永中学校	3年	小森 真桜
夏の海遠く見やれば水平線	引野中学校	1年	江口 優香
夕焼けとともに広がる琵琶湖かな	引野中学校	3年	三隅 未夢
風鈴が教えてくれる風の声	岡垣東中学校	1年	村岡 那桜

深川 淑枝 選

とぶほたる光で気持ちを伝えてる	葛原小学校	5年	梶崎 達也
たんぽぽの子どもの旅が始まるよ	萩原小学校	5年	水野 樹莉
夏の空むぎわらぼうしとんでゆく	本城小学校	6年	藤村 晃仁
夏休み最後の1日いそいでる	山田小学校	6年	渡邊 優里菜
妹をだくとベタベタ夏が来た	山田小学校	6年	下川 凧斗
ふと気付くせみとサンダル今どこへ	松ヶ江中学校	3年	片岡 佑斗
ヨーヨーのふうせんごしの水の冷たさ	足立中学校	3年	荒木 寧々
夏の空もう戦機なんか飛ばさせない	思永中学校	2年	那須 恵
忘れ物油蝉鳴く教室に	守恒中学校	2年	福谷 海斗
蝉時雨遠く聞こえる自習室	守恒中学校	3年	畠中 美緒
風が吹き手からはなれた夏帽子	熊西中学校	1年	古賀 愛奏美
磯遊び服に残った潮のあと	引野中学校	1年	中野 伸治

ろざんそう ひさじょ たかこ 櫓山荘と杉田久女、橋本多佳子

櫓山荘公園（小倉北区中井浜）には、櫓山荘（ろざんそう）という洋風の建物が建っていました。大正9（1920）年に小倉に住んだ実業家橋本豊次郎（はしもととよじろう）が自分で設計し、建築したものです。豊次郎は児童文化の振興や様々な文化活動に関わり、櫓山荘は多くの文化関係者が集まる場所（文化サロン）となりました。

当時の俳句界の中心人物であった高濱虚子（たかはまきよし）もこの櫓山荘での俳句の会に出席しました。その会で豊次郎の妻橋本多佳子（はしもとたかこ）は、俳句のすばらしさを知ることになり、その会に出席していた小倉の俳人杉田久女（すぎたひさじょ）に俳句を覚えてもらうことになりました。後に、この二人は、俳句の世界において大きな業績を残し、近代女性俳句の源流と評価されています。

櫓山荘は既になくなりましたが、文化サロンであった櫓山荘やその櫓山荘で出会い、俳句の世界に大きな足跡を残した杉田久女、橋本多佳子を記念して「櫓山荘跡」の碑が、平成15年秋に建設されました。その後この一帯が北九州市によって「櫓山荘公園」として整備されました。

俳句づくりを通じて、自然や季節にふれあい、その感動を言葉で表現してほしい、櫓山荘やそこにまつわる文化や歴史を知ってほしいとの想いから、「櫓山荘跡」の碑の建設に関わった人々で、平成17年から始めたのが、櫓山荘子ども俳句大会です。



久女の句

餅こたまして山ほととぎすほしいまま（日本新名勝俳句金賞句）
花衣はなころもぬぐや纏まとわる紐ひもいろいろ

多佳子の句

乳母うばぐるま車夏どとうの怒涛どとうによこむき
いなびかり北よりすれば北を見る

●杉田久女

明治23（1890）年～昭和21（1946）年
お茶の水高等女学校卒業後、明治42年旧制小倉中学（現小倉高校）の図画教諭杉田宇内の妻として移り住む。大正5年兄の手ほどきで句作を始め、昭和6年には日本新名勝俳句で全国10万余句の中から金賞を射止める天性の才能を發揮した。

●橋本多佳子

明治32（1899）年～昭和38（1963）年
大正6年橋本豊次郎と結婚、大正9年櫓山荘を新築し小倉に移り住む。杉田久女に俳句の手ほどきを受け、「ホトトギス」に投句。昭和4年に大阪に移り、山口誓子に師事し「馬酔木」同人となる。昭和25年「七曜」主宰となる。

今回、小学校26校、中学校16校、特別支援学校2校の4,289名の児童生徒の皆さんから応募をいただきました。どうもありがとうございました。

主催：櫓山荘子ども俳句大会実行委員会

北九州俳句協会 北九州市立文学館
北九州市教育委員会 北小倉校区自治連合会
久女・多佳子の会 小倉北区役所総務企画課

協力：岡垣町教育委員会 公益財団法人芳賀教育文化振興会
北九州市消防音楽隊・カラーガード隊

後援：西日本新聞社